



諦めない挑戦と無限の可能性を求めて ホノルル・マラソンが障害者ランナーたちの夢を叶える舞台に!



障害者スポーツの普及活動を幅広く推進している認定NPO法人「ぼっかぼかランナーズ」の主宰であり、障害を持つ息子の母でもある林優子さんは、「ホノルルマラソンへの挑戦プロジェクト」を始動。昨年12月のホノルルマラソンに参加し、障害をもつ次男をサポートし、共に完走しました。その感動的な親子の物語について、母の優子さんにお話を伺いました。この親子の物語は、優子さんが二人目の子供として授かった次男「きよくん」が、「ドラベ症候群」という難病を抱えていたという事から始まります。担当医師の診断で4歳までの命と宣告された時、一人の母として障害児を持つという現実を受け入れ難く、長く塞ぎ込んだ辛い時間を過ごしていたといいます。いまだに治療法が確立されていない難病にも関わらず、それでもその人生に立ち向かう決心ができた時、挑戦と無限の可能性へ扉が開かれました。そしてフルマラソン挑戦の舞台裏には、団体のメンバーとボランティアが協力して作り上げたサポート体制、そして可能性を求める挑戦がありました。



林優子さんの次男、きよくん。ホノルルマラソンでは車椅子でフルマラソンに挑戦し、完走した

—「ぼっかぼかランナーズ」の立ち上げについて教えてください。

難病を抱えた息子の人生を、どうやったら幸せに導いてあげることが出来るだろうか?と考え始め、色々な機会を彼に与えてあげました。その中に「走る事」が好きだという発見があったのがきっかけです。4歳までしか生きる事が出来ないと言う医師の宣告の言葉をよそに、息子が元気に育っていく姿を見て、現実を受け入れ息子の幸せの為に何が出来るかしらと、考え始めました。そうやって私自分を励まし、前向きな生活を送っていた時、最初は短い距離でしたが、走る時に見せる彼の明るく嬉しそうな笑顔を見て、これだ!と感じました。その後、伴走の方の助けを借りながらも17歳の時に1.5キロの校内マラソンで見事優勝を果たしたんです!

—それは凄いですね! その時の喜びの様子が目に浮かびます。地道な訓練が実を結んだ瞬間ですね。

その事も励みになって、その後のぼっかぼかランナーズの発足に繋がりました。同会は、障害者スポーツに共感を持ってくださる会員の方々のサポートと、いろいろな形の後押しを頂きながら成長し、広がってきています。

—同会では障害者に対する理解や社会的な啓蒙活動も行っているとのことですが、具体的な様子を教えてくださいますか?

この会を通じて障害の種類や、どのような助けを障害者の方が必要としているのかと、身体的なサポー

トの仕方などを、専門家を迎えて説明会や勉強会などを開催し、障害者の方々住みやすい社会の環境作りにも貢献させて頂いています。例えば障害児を持つ母親の繋がりのサポートの場を作るなどもその活動の一つです。障害を持つ子供の母親達が一人ではないという事を伝え続け、心のサポートなども担っています。

—素晴らしいですね。どんどんその輪が広がるように私達も微力ながらも尽力させて頂きたいと思えます。ここで、ホノルルマラソンに話を戻しますが、まずレース全体を通じての感想をお聞かせください。

日本ではマラソンに参加するのに制限が多く、なかなか長い距離に参加出来ないのが現実です。例えば、障害の種類によって参加出来なかったり、時間制限があったりというのがあります。

私達がフルマラソンに挑戦できるのは、どんな人でも受け入れてくれるホノルルマラソンのおかげです。制限時間がない事が本当に素晴らしい事でした。それにも増して、今回初めて参加して感じたのは、沿道の声援が途切れない事。マラソンのために道路規制があるにも関わらず、車の中からクラクションや、声援を送ってくれた事がどれだけ励みになったか、ハワイの皆さんに心からありがとうと言いたいです。

—私達地元民として、アロハスピリッツを感じて頂けて嬉しいです。

それと、今回3名の障害者が参加しましたが、みんな一緒に、その声援のお陰で彼らの顔に嬉しさが溢れていたと聞いています。そして自然の美しさや、サポート体制が行き届いている事にも感動しました。ボランティアで日本から来てもらった人達も、同じように声援の温かさに感動していました。

—息子さんが8時間39分と言う素晴らしいタイムでゴールされました。ご感想を一言。

多くの障害者スポーツを楽しむ、チャレンジする事やそのサポートを志願して下さる方の心

に届いて、私たちの活動が広がるきっかけになる事を望んでいます。夢をあきらめないでほしいし、それは可能だという事を証明できたような気がします。

—この結果を生み出してくれた原動力ともなった「足こぎ車椅子」について簡単な説明をお願いします。

今までは車椅子を押してゴールするというのはあったと思いますが、私としては何か違和感がありました。やはり自分の足を使ってこそそのゴールだと感じていたんです。息子が歩行が困難になり始めた頃に出会った「足こぎ車椅子」は従来の車椅子と違い、脚の部分は自転車のペダル機能を使って、ハンドルと共に操作する事によって足の筋肉を育成しながら走行できるという画期的な日本製の優れものです。それでいてコンパクトな機能の車椅子で、脳溢血や、成人の障害を持つ方達にとっても利用できます。このお陰で障害者自身が自分に自信を持ってランニングをする事ができるという事が本来のスポーツの楽しみにつながっていると思います。

—ホノルルマラソンのみならず、障害者支援の興味深いお話を共有して頂き有り難うございました。最後に読者の皆さんに一言お願いします。

障害の為に自分達の夢を決して諦めないでください。ドアをぐっと押した時に次の道が広がって待っています。一緒に頑張りましょう。ネバーギブアップです。そして初めてのホノルルマラソンが皆さんの温かい声援と、サポートのお陰で最高の思い出となりました事を感謝致します。これを機にもっと多くの障害者スポーツに関心が集まるように願っています。読者の皆様に興味を持って頂けたら、是非ご連絡下さい。また、現地での伴走者も今後の課題として取り組んでいきたいと思っておりますので、ご賛同頂ければ嬉しいです。

(取材・文 Kei Kinoshita)



完走後、きよくんとの優子さん(右)、そして伴走ランナーのみなさん



フルマラソンに挑戦したななみちゃん



10キロに挑戦したまゆごさん

認定NPO法人ぼっかぼかランナーズ <https://www.pokarun.com>

認定NPO法人「ぼっかぼかランナーズ」は、あらゆる障がい者ランナーと伴走ランナーをマッチングして、マラソン大会参加をサポートしている団体です。主に大阪・兵庫で開催される大会に参加してきましたが、時間制限のないホノルルマラソンへ参加したいと思い、「ホノルルマラソンへの挑戦プロジェクト」も立ち上げました。